

## 退任のごあいさつ

うえ の あきら  
上 野 晃



8月27日任期を終え退任しました。

5期20年の永きにわたる任期を全うできましたのは、まずは市民の皆さまのご理解ご協力の賜物と心から感謝申し上げます。そして、何の圧力も加えず公平公正な市政を貫けるよう足元をしっかりと支えてくださった後援会の皆さまをはじめ、わたしの力不足を補ってくれた関係機関団体の皆さま、適切なアドバイスや激励をいただいた先輩友人の皆さま、さらによく協力し職務に励んでくれた職員各位に厚くお礼を申し上げます。

過ぎ去った20年、人々の思いはさまざまでしょうが、わたしには『もう20年もたったのか』の思いが勝ります。しかしこの間、実に多くの人々との出会いがあり、また、悲しい別れも数々ありました。政治や社会経済情勢の変化も大きく、まさに激動の時の中で、バブル崩壊後の経済不況が長引き、地域経済をはじめ諸々の地域間格差が拡大しました。地方自治体をめぐる情勢も、東京都ほか一部を除いて財政状況が国の地財計画締め付けにより一段と厳しさを増し、人口流出や少子高齢化が続きさまざまな行政課題を惹起しています。当市も例外ではありませんが、社会奉仕や自治活動に参加される高齢者が圧倒的に多く、『まちづくりは市民自らの手で』の気運が確実に育っているのは喜ばしい限りです。さらに、東南アジアを主体に海外からの観光客が増加しており、サミットや開湯150年のイベント効果も期待されます。若く新鋭な市長を中心に市民力をますます強めて、協働のまちづくりを力強く進めてください。

最後に、わたしがやり残した『まちの将来について考える論議』についてお願いがあります。

登別市が明るく豊かで住みよいまちになるには、北海道全体が元気で活力のあることが必要です。そのためには、6つの経済圏を構成する小さい単位の、より結び付きの密接な生活経済圏、例えば第2次医療圏（20程度）ごとに、地域内の産業間の連携を強化し相互に補完し合うほか、共通の加工製造、流通貯蔵、研究開発、技術人材支援センターなど、その種別ごとの立地拠点を定めて国や道の大規模投資を集中して行い、早期の効果発揚を期するべきであります。そして住民に最も近いところで質の高い行政サービスを効率よく行うには、地方分権を積極的に進めると同時に、基礎自治体としての市町村もその役割を果たせるよう組織体制を強化しなければなりません。それには、さらなる合併を進める必要があります。

翻って西胆振一本化の取り組みは、まだ緒についたばかり、必要な資料を早くまとめて住民論議を深めなければなりません。将来ビジョンを描くための検討会が始まった段階ですが、孫子の代のまちの在るべき姿を思い論議を深めて、総意の下に良き正しき選択をされるよう願ってやみません。

市民の皆さまのご多幸とまちの限りないご発展をご祈念申し上げます。